

# 一字庵 田上菊舎

旅する文人尼

我は山水の過客にして国を定めず境を限らず

飄々悠々物あり物なし...

## 菊舎顕彰会

〒759-5512  
山口県下関市豊北町大字田耕4454  
TEL / FAX : 083-783-0056  
URL : www.kikusha.com  
E-mail : info@kikusha.com

### ご案内図



田耕

長府



豊北町

- ① 故郷や名もおもひ出す草の花 (田耕小学校)
- ② 月を笠に着てあそば、や旅のそら (田耕・菊舎生家)
- ③ 錦着るや一世の晴の月の笠 (田耕・出合広場)
- ④ 鐘氷る夜や父母のおもはる、 (長府・功山寺)
- ⑤ 月に花に戸ささぬ関の往来かな (長府・市立美術館)
- ⑥ 雲となる花の父母なり春の雨 (長府・徳応寺)

### 生誕地田耕へのアクセス

- 山陽新幹線  
新下関駅より車.....50分
- JR山陰線  
滝部駅より車.....10分
- 中国自動車道  
美祿インターから車.....20分



### 略年譜

田上菊舎 その生涯

一七五三	宝曆三	一
一七六八	明和五	一六
一七七六	安永五	二四
一七七八	安永七	二六
一七八一	天明元	二九
一七八二	天明二	三〇
一七八四	天明四	三二
一七八六	天明六	三四
一七九〇	寛政二	三八
一七九三	寛政五	四一
一八〇三	享和三	五一
一八〇八	文化五	五六
一八一	文化八	五九
一八一二	文化九	六〇
一八二四	文政七	七二
一八二六	文政九	七四

十月十四日、長門国豊浦郡田耕村(現山口県下関市豊北町田耕)に、長府藩士田上由永(のち本庄了左)の長女として誕生。本名道。近所の村田利之助に嫁ぐ。田上家は長府(現下関市)に移住。夫・利之助病没。

「菊車」の俳号を授かり、長府田上家に復籍。

秋、尼僧となり、美濃にむけて俳諧の旅に出立。

美濃の朝暮園傘狂の門に入る。「一字庵」の号と美濃派連中への添文を受け、「おくのほそ道」の逆コースを辿る大行脚に出る。年末、江戸着。のち「菊舎」に改号。

江戸出発。美濃伊藤宗長に茶道を学ぶ。秋四年ぶりに帰郷。

美濃の細竹庵百茶坊に随伴し九州へ。晩秋、独り長崎へ。

京都東山双林寺での芭蕉百回忌取越法要に参列。

宇治万福寺をはじめ名所旧跡巡拝。

再び、江戸へ。七弦琴を贈られ弾琴を学ぶ。

長府藩主十一代毛利元義公に召され、御用絵師文流斎と「前田二十勝」を合作。

下関阿弥陀寺山の空月庵を借りて、炉開きの雅筵を二十日間開く。京都西本願寺、親鸞聖人五五〇回大遠忌に参詣。大徳寺で茶会主催。奈良法隆寺で中国伝来の開元琴を演奏。『手折菊』四巻を刊行。生誕地田耕の葵々園村田桃葉に一字庵の文台を譲る。

八月二十三日、長府印内の田上家にて死去。墓所は二ヶ所、長府中之町本覚寺と長府金屋町徳応寺。

Tagami Kikusha was born in Tasuki village, Shimonoseki city in 1753, and became one of the most famous women haiku poets in the Edo-period.

She extremely loved traveling and traced the Oku-no-Hosomichi all by herself to compose a lot of haiku poems, and therefore, was called Onna Basho. She also loved painting, playing the koto and engaging in the tea ceremony.

月を笠に着てあそびばゞや旅のそら

余は月華を住処とす

俳聖・松尾芭蕉の跡を慕い  
生涯の大半を諸国行脚に明け暮れた  
江戸期の女性・田上菊舎

―常に千歳の楽みをいだけば

身の行ひは遊びを業として

我を知るも知らざるも遊び

世を雲水の旅に遊び

郷に帰りて又遊び

呵られて遊び

誉られて遊び

あそびに致々汲々として・・・

旅に遊び 四季に遊び

人と遊び 諸芸に遊んだ

菊舎の遊びごころを

ごいっしょに

作品介绍



▲ 鳥居図



▲ 狗子仏性図



▲ 弹琴図



山門を出れば日本ぞ茶つみ歌

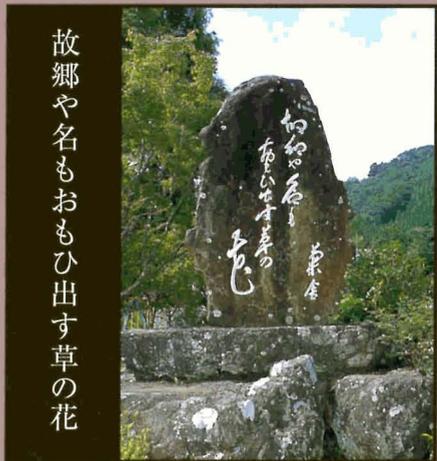


臆病な客はかへして鰻と汁



菊舎行脚足跡図

句碑紹介



故郷や名もおもひ出す草の花

田耕小学校 ―豊北町田耕―